

第5学年 国語科学習指導案

男子 18名 女子 12名 計 30名
指導者 中山 幸子

- 1 単元名 椋鳩十から受け取ったメッセージを交流しよう
教材 『大造じいさんとガン』（光村図書5年）

2 単元について

(1) 教材について

この物語は、狩人と野生動物の知恵比べであるが、「残雪」に対する「大造じいさん」の心情の変化が核となっている。「残雪」の勇氣ある行動によって「大造じいさん」が心を変えていく様子や動物の生態を描きながら、作者は、人間にこうあってほしい（人のために生きる姿、堂々と戦うこと、心から感動する姿など）という願いを読者に訴えていると捉えている。

本教材は大きく前書きと本文に分けられる。本文は、冒頭・展開・山場・結末となっていて、容易に場面の設定をとらえることができる。第1～3場面の前半までは「大造じいさん」と「残雪」の駆け引きが展開される。第3場面の後半で話が一転する。「大造じいさん」の計略通りの展開がハヤブサの出現で一転し、「大造じいさん」は仲間のために命をかけて戦う「残雪」の崇高な姿を目の当たりにすることになるのである。第4場面では、春になり手当てを受けた「残雪」が北へ飛び去っていく様子と、それを見守る「大造じいさん」が描かれている。

副教材として、椋鳩十シリーズの中から『片耳の大シカ』（偕成社文庫）を並行読書として使用する。『大造じいさんとガン』と同じような物語の構造、登場人物の相互関係が読み取りやすいもの、動物の愛情や本能をテーマにしているもの、情景描写に優れたものなどを基準として選定した。

(2) 児童の実態

叙述に即して正確に読み取ることは大体できる子どもたちであるが、自分の考えを話したり書いたりすることに苦手意識をもつ子どもが多い。書かれている内容を自分の言葉でまとめたり、自分の考えを分かりやすく相手に伝えたりすることに課題がある。

物語教材『のどがかわいた』の学習では、物語の展開に沿って登場人物の人物像と人物同士の関わりに気を付けて読んだが、自分と友達との関わりを思い起こしながら読むことは難しかった。初めての伝記教材『百年後のふるさとを守る』では、伝記に描かれた人物の生き方や考え方に関わる叙述を見つけ出し、伝記の中の人物と自分とを重ね合わせて考え、自己の生き方を考える機会とした。「自分だったら」と自分に置き換えて考えられるようになってきたが、伝記の人物の功績に目が向き、筆者の作品に込めた思いには至らなかった。

(3) 指導の構え

本単元では、小学校学習指導要領・国語の第5学年及び第6学年「C読むこと」の指導事項「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること」と「オ本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」「カ目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」を取り上げて指導する。読み方の習得の一つとして物語全体の構成を把握することを学習した上で「大造じいさん」の生き方や考え方を読み取る。その際には、どの叙述をどのように捉えたのか、そして、自分の経験や同

一作者の他の作品を読んだ経験から得たものを交え、作者の思いを探ったり、作品に対する自分の考えを伝えたりする。

本教材で、ガンとのかかわりの中で変化する猟師を生業とする「大造じいさん」の心情や考え方を叙述と関連付けて生き方や考え方を読みながらも、動物が自然の中で生き抜いていくことの厳しさも描いた物語であることに気付くだろう。また、同一作者の他の本を読み類似点を考えることは、作品の中に共通して流れている作者の思いを受け止める一助となる。動物と人とのかかわりの物語は分かりやすく楽しく読むことができることや、一編が短く通読するのに時間がかからないこと、同一作者の動物を描いた物語が数多くあることなどの理由から、並行読書に取り組む。

そして、終末には一人一人が捉えた作者が作品を通して語りたかったことを交流する。作者が描いた動物(動物の姿に作者が願う人間の姿があると捉えている)の世界の知恵や勇気、たくましさ、誇り、優しさなどから「生きる」ことについて考えを深めさせたい。

3 単元の目標

- 作者のものの見方・考え方を捉えるために、進んで物語を読もうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 人物描写や情景描写に着目し、表現のよさを味わいながら登場人物の相互関係や心情の変化を読み取ることができる。
(読むこと)
- 作者のメッセージを考えながら話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(読むこと)
- 情景描写、心情を示す表現、視点の転換、文章の構成などを理解しながら読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
<ul style="list-style-type: none"> ・心に残る言葉、文章、情景や全体の構成を楽しんで読もうとしている。 ・作者のものの見方・考え方を捉えようと、教材文や同じ作者の別の本を読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情や行動を表す文・語句・描写など、優れた叙述に着目し、登場人物の相互関係や人物像、背景などを読み取っている。 ・読み取ったことや考えたことが、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、考えをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情景描写の美しさや心情を示す表現、視点の転換、文章の構成などに着目し、語感や言葉の遣い方に気を付けて文や文章を読んでいる。

5 研究仮説との関連

<仮説1> 子どもたちが見通しをもって取り組めるように単元の構想を工夫することにより、主体的に追究を進めていくことができる。

(1) 単元を貫く言語活動

高学年では、作者や筆者の述べたい内容や要旨を捉えることもねらいとしている。子どもたちには、始めに「椋鳩十は動物の世界を描くことを通して、何をわたしたちに伝えようとしているのか、そのメッセージを受け取り、受け取ったことを交流する」ことを伝える。作者が伝えたかったことについて考える最初の単元である。

まず、一人一人がノート作りをしながら全体を通して読む。次に、おそらく多くの子どもが関心をもつであろう「残雪とハヤブサ」「残雪と大造じいさん」の山場と結末の部分を取り上げたい。大造じいさんの心の移り変わりを中心に、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写に着目し、物語の展開に外してはならない出来事を的確に捉えたい。

終わりには、中心人物の人物像を考えたり作者が作品を通して語りたかったことを考えたりする。課題について根拠となる叙述を上げて、自分の見方・考え方で考えをもち、仲間と関わる中で交流することの意義を感じられるような場を工夫したい。自分の考えをもてない子どもに対しては、教材の一部を引用することや巻末の解説文を活用すること、「自分だったら」と自分に置き換えて考えることを指導していきたい。

(2) 並行読書

本単元では、二つ以上の作品を比べて読んだり重ねて読んだりする学習を取り入れ、読み比べに興味を感じたり作者に関心をもったりして読書に親しむ態度を育みたい。椋鳩十作品に多く使われている「自然の中でたくましく生きる動物の偉大さ」のようなテーマに着目することで、自分の考えが明確になると考える。

<仮説2> 互いの読みや考えが関わり合う場を工夫することによって、子どもは考えを深めることができる。

(1) 自分の考えを広げ深める手立て

互いの読みや考えが関わり合う場、つまり伝え合うことができるのは、互いの立場や考え方を尊重する学級風土があってこそである。学校生活全般を通して伝え合うことができる学級づくりに取り組みながら、国語科では言語を通して適切に表現し合ったり正確に理解し合ったりする言語力を高めていくことが本学級の課題である。

作品には作者の思いや願いが込められている。本単元は、作者のその思いを探ることが学習の中心であるが、同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方や思い、考えなどが違うように、読書には、読者が自分なりに物語を受け止められる自由がある。それを話し合いの中で伝えていくことができるようにしていきたい。そのために、次の3点を意識したい。

- ・話し合いにより、思いや考えを交流し合う中で、互いに認め合い、自分の考えを広げたり深めたりできる。
- ・二つ以上の作品を読み比べて感じたことや考えたことを、根拠を明らかにして、相手に分かりやすく説明することができる。
- ・自分と仲間の感じ方、考え方の共通点や相違点を捉えながら、聞くことができる。

日常的な言語活動の一つとして、日直による朝の会のスピーチを行ってきている。話題から逸れないように話を聞いて話し、感想を聞いた話し手は聞き手の話を聞いて話すようにしてきた。話し手の意図をつかむことや話し手が何を伝えたいと思っているのか想像すること、尋ねながら聞くことなど、大人にとっても難しいことだが取り組んでいかなければならないと考えている。

(2) 論点を明確にした話し合い

教師が子どもの発言をどのように受け止めるかが大事であるが、子どもの発言を生かすことは大変難しい。他の子どもが十分理解したか、また、その内容について疑問や関連したことはないのかなどを掘り下げていくことが必要である。他の子どもたちが気付かない点に気付いたことについては、叙述に立ち返り、改めて全体で考える課題にすることも必要となってくるであろう。見極めの難しさを感じている。

今が何のための話し合いなのかが学級全体のものとなり、話し合う中で理解し、話し合いながら気付き、話し合っ解決し、話し合いを通して深め合っていく活動を展開することが理想である。単なる言い合いの場にならないように、論点を明確にし、ねらいに迫るための話し合いになるように、補助発問を加えたり、考えの共通点や相違点が明確になるような板書を工夫したりしたい。

<仮説3> 学んだことを振り返り、考え方や感じ方を全体で共有することで、学んだことを次の学習に生かしていこうとする意欲をもつことができる。

(1) 振り返りの工夫

1時間の授業では、その時間のねらいがどの程度達成できたかを見るために、「何が分かったか」「何がどのように変わったのか」など「何が」を明確に書かせるようにする。話し合いの成果を全体で共有する（確認する）ために、学習課題について「つまり」「だから」などの言葉を用いて結論を導いたり、まとめたりして本時の学習内容を確認していきたい。その際には、始めの自分の考えと照らして、「新たに得た知識や考え方」「自分の考え方に付け加わったこと」「自分や仲間の考えの良い点や改善点」「さらに考えたいこと」などを振り返りの観点として、最終的に自分はどう捉えたのかを振り返る。特に授業では取り上げられなかった高まりのある内容を次に生かしていく方法を探りたい。

(2) 主体的な読書活動への期待

複数の作品を比べて読み考えている子どもや、発展的にシートンなど他の作者の動物記を読んでいる子どもは、その共通点や相違点、読書をする事への楽しみを感じているはずである。その子どもたちの考えを積極的に評価し紹介していきたい。そうすることで、目的をもって読む学びの楽しさが感じられ、今後の主体的な読書活動につながるのではないかと考える。

6 全体計画 (11時間 本時10/11時)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点			評価規準
				関	読	言	
1次		<p>【正しく音読し、物語の全体像をつかむ】</p> <p>○単元名を聞き、作品には、その作者が読者に伝えたい思いがあることを知る。</p> <p>○物語を読み、心に響く文に線を引き、初発の感想を書いて交流する。</p> <p>○難語句や新出漢字を調べる。(課外)</p> <p>○学習の流れを確認する。</p> <p>○登場人物、中心人物、時、場所、事件などをまとめる。</p>	<p>・既習の伝記や説明文の筆者は、何を読者に伝えたかったのか触れ、単元名を伝える。</p> <p>・学習のねらいと学習の進め方を知らせる。</p> <p>・音読を位置付ける。</p> <p>・登場人物と中心人物や場面設定を確かめることで読みの共通の土台をつくる。</p> <p>・ガンや栗野岳についても調べるとよいことを伝える。</p>	○	○	○	<p>[読]読み手である自分に伝わってきたことを意識して、自分の思いを素直に書いている。</p> <p>[読]あらすじをつかんでいる。</p> <p>[言]新出漢字を読んでいる。</p> <p>[言]辞書を使って言葉の意味を調べている。</p>
2次		<p>【登場人物の関わり合い、心情の変化を読み取る】</p> <p>○読みの目当てをもつ。(全体・個人)</p> <p>[例]</p> <p>・場面毎に大造じいさんの気持ちの変化を考える。</p> <p>・大造じいさんがとった作戦とそのときの気持ちを考える。</p> <p>・大造じいさんの残雪に対する見方が、大きく変わった場面はどこだろう。</p> <p>・大造じいさんは、どのような人物だろう。</p> <p>・情景描写から大造じいさんの心情の変化を読み、場面毎に「～する大造じいさん」の一文でまとめる。</p> <p>前書き</p> <p>・読者を物語の世界へといざなう役割を果たしている。</p> <p>・作り話である。大造じいさんは30代。</p> <p>・視点が「わたし＝棕さん」?</p> <p>第1場面〈冒頭〉</p> <p>○登場人物の人物設定と釣り針の計略について読み取る。</p> <p>・ウナギつりばりを残雪に見破られた大造じいさん</p> <p>[着目する行動の変化]</p> <p>・タニシを付けたウナギつりばりをしかけておいた。</p> <p>・昨日よりも、もっとたくさんのつりばりをしかけておいた。</p> <p>第2場面〈発端〉</p> <p>○第1場面の大造じいさんの気持ちと比較しながら、たにしの計略について読み取る。</p> <p>・またしても残雪にしてやられた大造じいさん</p> <p>[着目する行動の変化]</p> <p>・「ううん。」とうなってしまう。</p> <p>第3場面〈山場〉</p> <p>○はやぶさと残雪の戦いの場面を中心に読み、大造じいさんの心の変化を読み取る。</p> <p>・手に入れたガンをおとりにする大造じいさん</p> <p>・仲間を命がけで守ろうとする残雪</p> <p>・残雪の態度に強く心を打たれた大造じいさん</p> <p>[着目する行動の変化]</p> <p>・冷え冷えするじゅう身をぎゅっとにぎりしめました。</p> <p>4 ・が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。</p> <p>5 ・大造じいさんは。強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。</p> <p>[着目する色彩描写]</p> <p>・白い羽毛があかつきの空に光って</p> <p>6 ・残雪は、むねの辺りをくれないにそめて</p> <p>・羽根が白い花卉のように</p> <p>[視点の転換]</p> <p>7 ・残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。</p>	<p>棕鳩十から受け取ったメッセージを交流しよう</p> <p>並行読書</p> <p>『片耳の大シカ』(偕成社文庫)</p> <p>その他</p> <p>・全体に広めたい課題を紹介したり、場面毎に音読したりすることで、読みの目当てをもてるようにする。大造じいさんの心の動きや残雪の素晴らしさ、自然描写の美しさ、人と動物の触れ合いなどに心を動かしながら読むとよいことを教える。その上で、登場人物の相互関係や行動、情景描写などから大造じいさんの心情を想像させる。</p> <p>・冒頭、発端、山場、結末の言葉を知らせ、4場面の設定(物語の構成)をつかむ。</p> <p>・大造じいさんの行動の変化から、ものの見方や考え方の変化を読み取らせるようにする。</p> <p>・大造じいさんの人物像を確かめる。</p> <p>・物語を読み深める方法を説明する。</p> <p>◇色彩に着目して読み深める。</p> <p>◇登場人物の行動が大きく変わる所を探し、登場人物のものの見方や考え方の変化を読み取る。</p> <p>・一人で学習するのが難しい場合には、あら筋を確認し第3場面の最後の一文に表れた大造じいさんの心情に絞って考えさせるようにする。</p> <p>・クライマックス(決定的な変容、中心人物が変わった所)の一文を本文から探す。大造じいさんの心を大きく変えるきっかけとなったものを、視点の人物が大造じいさんから残雪に転換した所を確認し、クライマックスについて考えさせる。物語の伏線について教える。</p> <p>・場面と場面、場面の中で対比について気付くようにさせる。(作戦一対決一失敗の反復で構成)</p>	○	○	○	<p>[関]読みの目当てを意欲的に考えている。</p> <p>[読]理由を明らかにしながら作者の作品に込めたメッセージを捉えようとしている。</p> <p>[読]登場人物の相互関係から人物像や役割を捉えている。</p> <p>[言]言葉の美しさを感じたり、比喩など文章に表れる表現の工夫に気付いたりしながら読んでいる。</p> <p>[読]登場人物の行動や会話などについての優れた叙述に着目して、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。</p> <p>[読]場面の展開に沿って読み、感動を生み出す優れた叙述に着目しながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>[言]文章を特徴付ける語句に気付き、語句と語句との関係を理解して読んでいる。</p>

	<p>第4場面（結末） ○大造じいさんの行動についてどのように思ったかを考える。 ・飛び立つ残雪を見送る大造じいさん [着目する行動の変化] ・じいさんは、おりのふたをいっぱいにかけてやりました。 ・らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。 ・また堂々と戦おうじゃあないか。</p> <p>【大造じいさんの心の移り変わりについて交流する】</p> <p>大造じいさんは、なぜ「晴れ晴れとした顔つきで」残雪を見守っていたのだろう。</p> <p>[中心となる叙述] ・「おい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやって来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃないか。」 [大造じいさんの残雪に対する心境の変化] ・頭領らしい、なかなかりこうなやつ ・いまいましく思っていた ・たかが鳥のことだ ・思わず感嘆の声をもらした ・たいしたちえをもっている ・目にも見せてくれるぞ ・ぬま地の向こうをじっと見つめたまま、うなる ・あの残雪めにひとあわふかせる ・鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度 ・ただの鳥に対してしているような気がしない ・ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつ ・おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんの言葉について、なぜ「晴れ晴れとした顔つきで」残雪を見守っていたのか考えさせる。 ・読み取りをさらに深め確かなものにするというねらいをもって全体で話し合う。また、話し合った結果、読みがどのように変容したかを振り返るようにする。 	○ ○	<p>[関]自分の考えの根拠を明確にしながらか話し合おうとしている。</p> <p>[読]話し合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>
3次	<p>【比べ読み、重ね読みを通し、自分の考えをもつ】 ・椋鳩十の他の作品と読み比べて、展開や心情の変容など共通点を考える。 【椋鳩十から受け取ったメッセージを交流する】 8 ・作者が作品を通して伝えたかったことを自分なりに捉え、考えを交流する。(本時第10時) 9 椋鳩十から受け取ったメッセージを交流しよう 10 11 ・交流後、自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をもつことができるように考える時間を確保する。必要であればペアやグループトークを入れ、自信をもって全体での話し合いに臨ませたい。 ・椋鳩十の生涯や他の作品にも触れ親しませる。椋鳩十の人となりを感じ、作品のおもしろさや素晴らしさに共感させながら、物語に託された作者の思いや願いを考えさせる。 ・初発の感想と読み比べて、作品に対する自分の思いや考えが広がり、深まったことに気付かせる。 	○ ○	<p>[関・読]目的に応じて複数の本や文章を選んで比べて読んでいる。</p> <p>[関・読]感じたことや考えたことがどのように共通していたり相違したりしているかを明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>

7 本時の学習 (10/11 時)

(1) ねらい

- ・ 椋鳩十の作品から受け取ったメッセージを交流し合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりできる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点 (◆評価)
<p>1 本時の学習課題を確認し、課題について前時に書いたものをペアで交流する。(5分)</p> <p style="text-align: center;">椋鳩十から受け取ったメッセージを交流しよう</p> <p>2 書いたことを基に全体で交流する。(25分)</p> <p>◆評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に課題を提示し、考えをまとめる時間をもつ。 ・ 『大造じいさんとガン』を中心に、読み手である自分は、椋鳩十の作品から何を感じたか、どんなメッセージを受け取ったかという問題意識をもたせるようにする。 ・ ペアで互いに自分の考えを交流し合うことで、考えに自信をもたせたり見直したりさせる。 ・ 交流の場面では、人によって解釈が違うことを認め、全員で話し合うことを楽しく感じられるように子どもの発言を受け止めるようにする。 ・ 話すときは、分かりやすく伝えることを意識させる。まず、課題に対する考えを話し、次に根拠となる叙述や理由を話すように指示する。 ・ 聞くときは、共通点や相違点に気を付けて聞くことを確認する。 ・ 振り返りでは、学習の始めと「どこが」「どのように変わったのか」「変わらないのか」「さらにどんなことを考えたのか」を書くようにさせる。また、交流したことで互いの思いを共有したり、広がったり深まったりしたことを印象付ける。 <p>◆話し合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりできたか。(発表、ノート)</p>	

(3) 授業観察の視点

- ・ ねらいを達成するために、全体での話し合いの進め方、教師の子どもへの発言の取り上げ方は有効だったか。